

事業内容Ⅰ.退院支援と連携

事業内容Ⅱ.患者・家族の生き方を支える意思決定支援

申請者：松本美奈

助成対象年度（2013年度後期）

提出 2015年2月26日

## 事業内容 I

日時：2014年8月9日（土） 13：30～18：00

開催場所：TKP札幌駅カンファレンスセンターにて

テーマ：「退院支援と連携～患者・家族が在宅移行できるために私たちが出来ること～」

講師：阿部泰之氏 旭川医科大学病院 緩和ケア診療部 副部長

開催概要（プログラム）

グループワーク①「療養場所としての病院の強み」

グループワーク②「退院支援・地域連携についての課題」

グループワーク③「課題に対しての解決策」

レクチャー「地域連携を促進するアクションを起こそう」

参加者：緩和ケア認定看護師 26名（うち世話人4名）

## 事業内容 II

日時：2015年1月24日（木） 13：00～17：00

開催場所：TKP札幌駅カンファレンスセンターにて

テーマ：「患者・家族の生き方を支える意思決定支援」講義とパネルディスカッションにて  
施行

講師：近藤まゆみ氏 北里大学病院 がん看護専門看護師

パネルディスカッション事例提供：3名

開催概要（プログラム）

基調講演「患者・家族の大切な思いをつなぐために～ACPと意思決定支援を中心に～」

パネルディスカッション「患者・家族の思いをつなげるために必要な連携とは」

① 積極的治療期：KKR札幌医療センター斗南病院 がん化学療法認定看護師 光野薫

② 療養場所選択時期：今井ホームケアクリニック 緩和ケア認定看護師 吉井みゆき

③ 終末期：東札幌病院 緩和ケア認定看護師 青田美穂

参加者：緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師 56名（うち世話人4名）

以上、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による研修会を2回に分けて開催した。

感想（事業目標の達成状況）：

緩和ケア認定看護師は切れ目のない緩和医療の連携を目指した活動を日々目指している。1回目の研修で退院支援・地域連携の課題で多く出ていた『意思決定をつなぐ』という課題に対しての解決策となるように2回目の研修会を修正して計画したことにより、緩和ケア認定看護師の活動の示唆が得られたと考える。

また、2回目はパネルディスカッションで治療期にメインで介入しているがん化学療法看護認定看護師にも参加してもらい、治療期から終末期まで関わる看護師が見ていることの違いから、今後連携する上でのお互いの看護ケアを尊重する関わりも検討できた。がん化学療法認定看護師と訪問看護や緩和ケア病棟で活動している緩和ケア認定看護師とのディスカッションで、アドバンスケアプランニングをつないでいくということを考えることが出来た。終了後の参加者のアンケートからも研修の満足度は高く、研修自体は成功し、ほぼ事業目標の達成に至ったと評価できる。認定看護師同士のつながりについても、研修を行うことでネットワークを築くきっかけとなったと考える。

ただし、研修終了後のそれぞれの施設での活かし方については、調査を行っていないため、把握できていない。今後の研修運営における課題としたい。